

千葉市畜産振興指針

令和8年（2026年）3月

千葉市

目 次

I	指針策定の基本的な考え方	
1	指針策定の目的	1
2	本指針の位置づけ	2
3	対象期間	2
II	本市畜産業の現状と課題	
1	本市畜産業の現状	3
2	本市畜産業の課題	6
III	畜産振興の目指す方向性	
1	本市畜産業の目指すべき方向性	12
2	方針	13
3	施策の体系	14
IV	課題ごとの施策展開	
1	生産性及び経営力の向上	15
2	家畜衛生対策及び危機管理の充実・強化	16
3	環境と調和のとれた畜産経営	17
4	自給飼料の生産と利用拡大	17
5	消費者理解の向上	18
V	指針の推進に向けて	19
VI	畜産農家アンケート調査結果	21
VII	市民アンケート調査結果	43
VIII	参考資料＜用語の説明＞	45

I 指針策定の基本的な考え方

1 指針策定の目的

本市では、令和5年3月に2020年農林業センサス等により明らかとなった本市農業の現状や国の「みどりの食料システム戦略」及び「食料・農業・農村基本計画」をはじめとする関係計画を踏まえ、本市農業を成長産業化し、次世代へと継承するための計画として「千葉県農業基本計画（令和5年度～令和9年度）」を策定し、畜産業においても「畜産農家の経営環境向上に向けた支援」をアクションプランに位置付け、各種施策を実施しているところです。

本市畜産業は、大消費地に隣接する恵まれた立地条件のもとに発展し、本市農業産出額の約24%（令和5年推計）となる1/4を占め、野菜に次ぐ本市農業の基幹的部門となっており、その産出額は県内54市町村中、16位に位置しています。なかでも、乳用牛は市内畜産産出額の約5割を占め、本市農業産出額の約11%となる1/10を少ない酪農家（17戸）で産出し、産出額は県内11位となっており、本市の学校給食では地元産の牛乳が供給されるなど、主要な生乳供給地となっています。このように、本市の畜産業は、安全で良質な畜産物の安定供給、地域農業の基幹産業として重要な役割を担っています。

しかしながら、国際情勢や急激な円安等の影響による、畜産飼料価格の高止まり等に起因する生産コストの増加を背景に収益性が改善せず、担い手の高齢化や後継者不足、家畜伝染病への対応、環境負荷への配慮、物流の2024年問題並びに国際情勢の急激な変化による先行きの不安（輸入への依存等）など、本市畜産業を取り巻く状況は厳しく環境は大きく変化しています。

次期「千葉県農業基本計画」は令和10年度に策定予定ですが、畜産業においては飼料費を始めとした生産コストの上昇・高止まりなどの諸問題が依然として続いています。そこで、国の「みどりの食料システム戦略」に即した、化学肥料・化学農薬の低減、地域資源を活用した飼料や堆肥の循環利用、スマート技術等の導入による生産性向上及び域内での輸送による環境負荷低減など、環境と経済性の両立を図る取組を加速させ、持続可能な食料システムを構築することが必要です。さらに、国の「食料・農業・農村基本計画」に即した、安定的な畜産経営の確立、人材の確保・育成、生産基盤の維持、環境と調和した畜産の推進、家畜防疫体制の充実、地域ブランドの創出及び食料自給力の向上、食料安全保障の確保（※国民の生活に必要な高品質な食料が確実に手に入る状態を維持すること）などが求められます。これら喫緊の課題を解決するためには、早急に施策の方向性を定める必要があります。

また、本市として今後起こり得る自然災害（地震や台風、気候変動等）や国際的な貿易問題（価格高騰、サプライチェーンの混乱等）などの外的ショックに対してリスク管理しつつ、地元の畜産物を域内で消費する「食料安全保障」の考えが、輸送による環境負荷低減を含め非常に重要であり、食料供給を実現するためには、本市の食料である、生乳をはじめとする畜産業という重要「インフラ」は必要不可欠です。よって、市内で食料（農畜産物）を生み出し続け、本市が98万人市民の食と暮らしを支える魅力ある成熟した都市に

なるためには、畜産業を下支えしていく必要があります。

こうした状況を踏まえ、厳しい環境下にある本市畜産業の衰退に歯止めをかけ、都市部における畜産業として経営基盤の維持と持続可能な食料システムの構築を図り、将来にわたり市民に安全・安心な畜産物、とりわけ新鮮な牛乳を安定的に供給できる「食料安全保障」の一翼を担う産業として確立していくため、「千葉市畜産振興指針」（以下「本指針」という。）を策定するものです。

2 本指針の位置づけ

本指針は、本市における農政の計画である「千葉市農業基本計画（令和5年度～9年度）」を上位計画とし、その部門別計画として畜産業の振興に向けた施策を総合的かつ計画的に推進するためのものです。

3 対象期間

本指針の対象期間は、令和8年度から令和9年度までの2年間とします。

なお、本指針は令和9年度に策定を予定している次期「千葉市農業基本計画（令和10年度～14年度）」の施策の一つとして統合する予定です。

計画名	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度～
千葉市農業基本計画（現行）	→					
千葉市農業基本計画（策定）						→
千葉市畜産振興指針				→		↑ 統合

II 本市畜産業の現状と課題

I 本市畜産業の現状

輸入飼料価格の高止まり等に起因する生産コストの増加を背景に収益性が改善せず、担い手の高齢化や施設の老朽化、並びに国際情勢の急激な変化による先行きの不安から、農家戸数の減少が続いています。

(1) 家畜飼養頭羽数と農家戸数

ア 酪農

- ・全国、千葉県ともに、酪農家数、飼養頭数は減少の一途を辿っています。本市では、大規模法人参入や規模拡大により飼養頭数は増加しています。
- ・酪農家の世代交代も進んできており、今後も継続して市内で酪農が営まれることが期待されています。

イ 養豚

- ・全国、千葉県ともに、養豚農家数、飼養頭数は減少の一途を辿っています。
- ・本市では、法人1件が、子豚生産から肉豚生産までの一貫経営を行っています。

ウ 養鶏

(ア) 採卵鶏

- ・全国では、養鶏農家（採卵鶏）数、飼養羽数ともに減少の一途を辿っていますが、千葉県では、養鶏農家（採卵鶏）数は減少するものの飼養羽数は増加しています。
- ・本市では、法人1件のみの経営となっています。

(イ) ブロイラー

- ・全国、千葉県ともに、養鶏農家（ブロイラー）数は減少するものの、飼養羽数は増加しています。
- ・本市では、法人・個人を合わせた5件が継続的に経営を行っており、飼養羽数は増加しています。

<参考>

○酪農における経営者の平均年齢（推計）

<条件>

- ・経営の主力となる者で、法人経営は除く
- ・75歳で離農すると仮定し、離農時に後継者がいる場合はその者で試算

現在 (R7.9末)	5年後 (R12.9末)	10年後 (R17.9末)
59.6歳 (15戸)	58.4歳 (12戸)	63.4歳 (12戸)

<基幹的農業従事者の平均年齢（2020年農林業センサスより）>

全 国 67.8歳、千葉県 66.9歳、千葉市 68.4歳

○家畜の飼養戸数と飼養頭羽数の推移

※千葉市は各年12月、全国と千葉県は農林水産省「畜産統計」各年2月1日現在の数値

【 酪農 🐄 】

区 分		H28	R3	R6	増減	
					対 R3	対 H28
千葉市	戸数 (戸)	36	23	17	-26.1	-52.8
	飼養頭数 (頭)	1,537	1,332	1,925	44.5	25.2
千葉県	戸数 (戸)	720	488	363	-25.6	-49.6
	飼養頭数 (頭)	32,100	27,700	25,700	-7.2	-19.9
全国	戸数 (戸)	17,000	13,800	11,900	-13.8	-30.0
	飼養頭数 (頭)	1,345,000	1,356,000	1,313,000	-3.2	-2.4

【 養豚 🐷 】

区 分		H28	R3	R6	増減	
					対 R3	対 H28
千葉市	戸数 (戸)	2	2	1	-50.0	-50.0
	飼養頭数 (頭)	x	x	x	x	x
千葉県	戸数 (戸)	309	250	216	-13.6	-30.1
	飼養頭数 (頭)	672,800	614,700	580,700	-5.5	-13.7
全国	戸数 (戸)	4,830	3,850	3,130	-18.7	-35.2
	飼養頭数 (頭)	9,313,000	9,290,000	8,798,000	-5.3	-5.5

【 養鶏 (採卵鶏) 🐓 】

区 分		H28	R3	R6	増減	
					対 R3	対 H28
千葉市	戸数 (戸)	4	3	1	-66.7	-75.0
	飼養羽数 (千羽)	294	200	x	x	x
千葉県	戸数 (戸)	167	106	90	-15.1	-46.1
	飼養羽数 (千羽)	12,808	11,605	14,129	21.7	10.3
全国	戸数 (戸)	2,530	1,960	1,700	-13.3	-32.8
	飼養羽数 (千羽)	173,349	180,918	168,599	-6.8	-2.7

【 養鶏 (ブロイラー) 🐓 】

区 分		H28	R3	R6	増減	
					対 R3	対 H28
千葉市	戸数 (戸)	5	5	5	0.0	0.0
	飼養羽数 (千羽)	270	278	284	2.0	5.0
千葉県	戸数 (戸)	32	25	24	-4.0	-25.0
	飼養羽数 (千羽)	1,838	1,757	1,935	10.1	5.3
全国	戸数 (戸)	2,360	2,160	2,050	-5.1	-13.1
	飼養羽数 (千羽)	134,395	139,658	144,859	3.7	7.8

※秘密保護の観点から、統計数値を公表していないものを「x」で表示

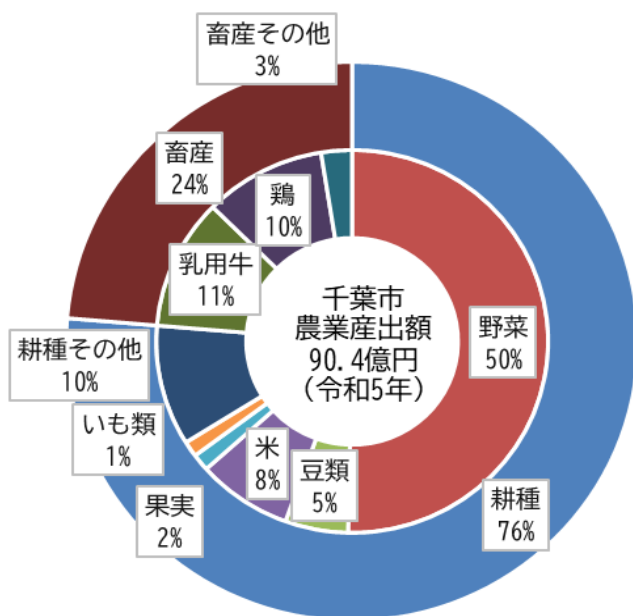
(2) 農業産出額

千葉市の農業産出額(令和5年推計)は、90.4億円で県内15位に位置しており、野菜、米、果樹などの耕種作物が76%を占め、畜産が24%となっています。

産出額の内訳では、野菜の50%に続き、酪農も盛んで乳用牛が11%であり、10億円の産出額を誇っています。

畜産農家が減少するなか、畜産が農業産出額に占める割合は令和元年度と変わらず、大規模法人参入や規模拡大による飼養頭数増加によるものと推察されます。

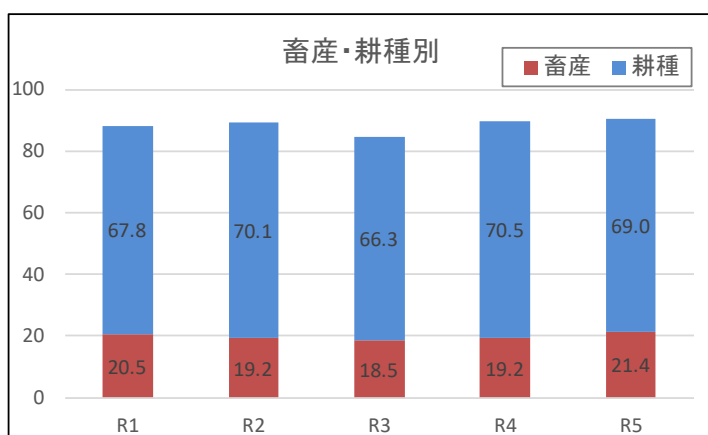
○令和5年 農業産出額（推計）



主な品目 (耕種)	農業産出額 (億円)	県内順位
野菜	45.5	8
ねぎ	4.8	9
にんじん	4.7	8
ほうれんそう	2.8	8
トマト	3.4	7
いちご	3.1	6
キャベツ	2.1	4
すいか	1.7	8
さといも	1.1	7
だいこん	1.4	13
やまのいも	1.0	6
レタス	1.3	3
はくさい	1.0	1
なす	0.6	9
きゅうり	0.7	15
たまねぎ	0.6	3
ブロッコリー	0.5	2
ピーマン	0.3	4
メロン	0.1	18
豆類	4.7	3
米	7.1	27
果実	1.3	16
日本なし	0.5	18
くり	0.3	1
ぶどう	0.2	10
いも類	1.2	10
工芸農作物	0.0	4

○農業産出額の推移

(単位：億円)



主な品目 (畜産)	農業産出額 (億円)	県内順位
乳用牛	10.0	11
生乳	9.2	11
乳牛	0.8	4
鶏	9.1	14
肉用牛	0.1	27

資料：農林水産省『市町村別農業産出額（推計）』

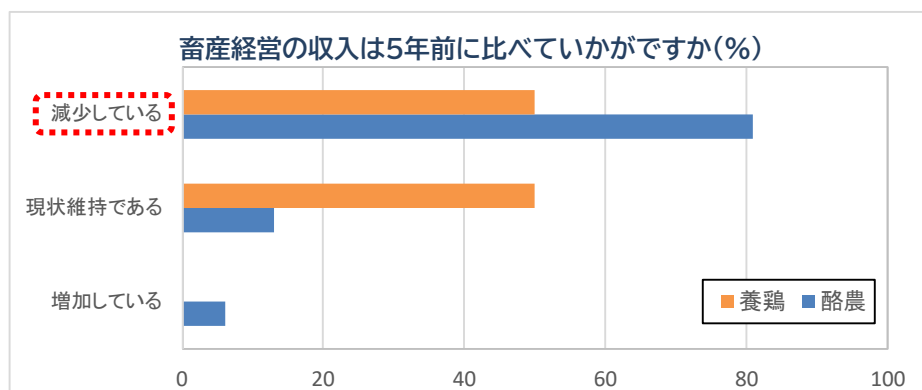
2 本市畜産業の課題

- (1) 畜産農家の高齢化や後継者不足が進んでおり、飼養管理や繁殖管理の効率化が必要であるとともに、気候変動への対応、労働環境の改善が必要です。

課題の背景

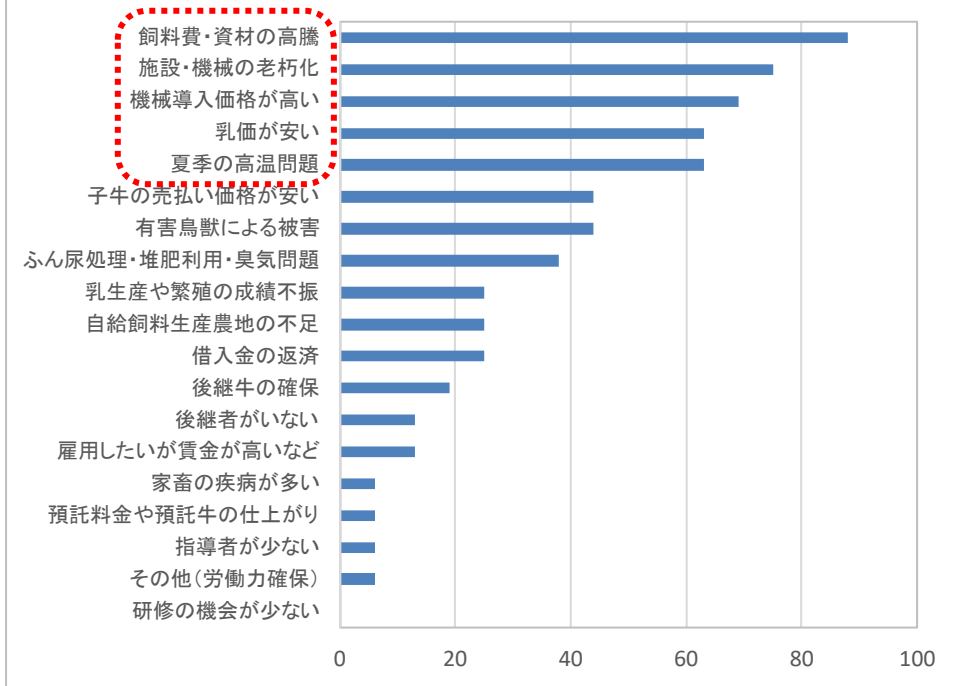
～畜産農家アンケート～

- ・経営者の年齢は、酪農では「60・70歳代以上」が50.0%を、養鶏では83.3%を占めており、高齢化は確実に進んでいます（P.21【問1】、P.36【問1】）。
- ・後継者は、「すでに就いている又はいずれ就農する」が、酪農では25.0%、養鶏では33.3%に留まりますが（P.27【問24】、P.41【問22】）、酪農では世代交代も進んできており、今後も継続して営まれることが期待されます。
- ・収入は、酪農では「年間500万円未満」は87.5%で、5年前に比べて「減少している」が81.3%となっています（P.22【問5、6】）。養鶏では「年間500万円未満」は66.7%、5年前に比べて「減少している」が50.0%となっており（P.36【問5】、P.37【問6】）、依然として経営は厳しい状況にあります。

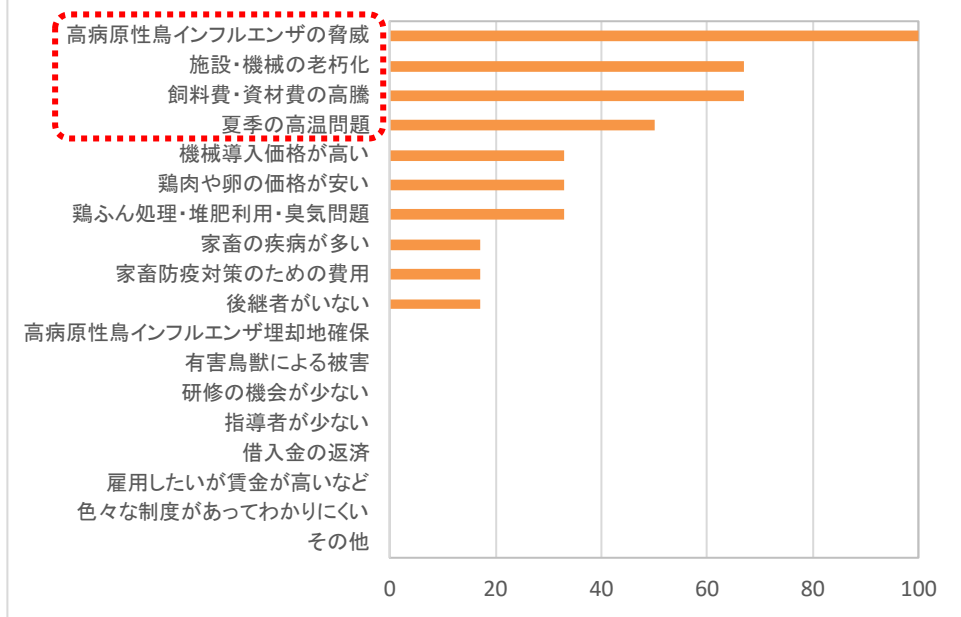


- ・経営上困っていることは、酪農では「飼料費・資材費の高騰」が87.5%、「施設・機械の老朽化」が75.0%、「機械導入価格が高い(スマート機器含む)」が68.8%、「乳価が安い」「夏季の高温問題」が62.5%となっています（P.27【問26】）。養鶏では「高病原性鳥インフルエンザの毎シーズンの脅威」が100%、「施設・機械の老朽化」「飼料費・資材費の高騰」が66.7%、「夏季の高温問題」が50.0%となっています（P.41【問24】）。

【酪農】経営上困っていることはありますか(%)



【養鶏】経営上困っていることはありますか(%)

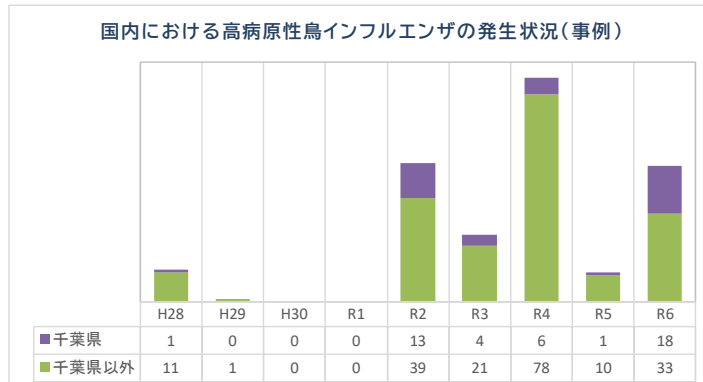


・必要な市の支援策は、酪農では「各種補助」が 56.3%となっており、そのうち「施設整備や機械導入(スマート機器含む)」「後継牛確保(性判別精液・受精卵)」が 66.7%、「預託料金負担軽減」が 55.6%となっています(P.28【問 27】)。養鶏では「各種補助」が 83.3%となっており、そのうち「施設整備や機械導入(スマート機器含む)」が 80.0%となっています(P.42【問 25】)。

- (2) 高病原性鳥インフルエンザや豚熱等の急性悪性家畜伝染病や自然災害の発生リスクが高まっているため、発生予防対策を講じるとともに、発生に備えた体制の強化が必要です。

課題の背景

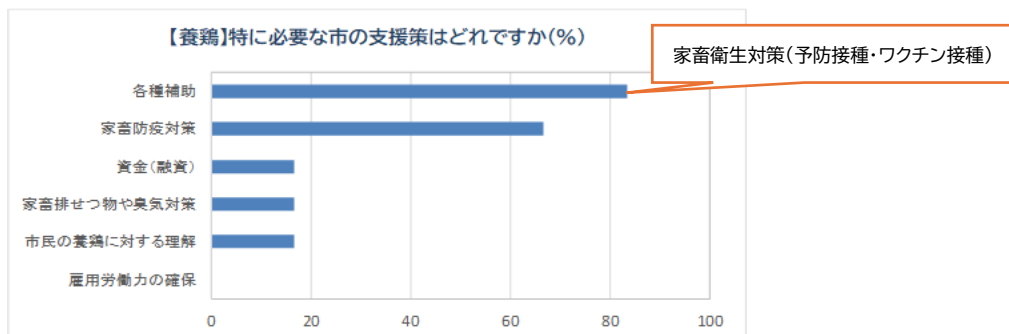
- 高病原性鳥インフルエンザは、国内において毎年発生しており、養鶏が盛んな千葉県において、発生リスクが高い状況にあります。



- 豚熱は、2018年に岐阜県で発生して以来、全国に広がっており、養豚が盛んな千葉県において、発生リスクが高い状況にあります。

～畜産農家アンケート～

- 養鶏では、経営上困っていることとして「高病原性鳥インフルエンザの毎シーズンの脅威」と100%が回答しています(P.41【問24】)。
- 養鶏では、必要な市の支援策として「家畜防疫対策」と66.7%が、「各種補助」と83.3%が回答し、「各種補助」のうち「家畜衛生対策(予防接種・ワクチン接種)補助」と100%が回答しています(P.42【問25】)。



- 農場 HACCP の取組は、「農場 HACCP の手法は今後畜産経営において重要である」と酪農では56.3%、養鶏では66.7%が回答しており、少数が「今後農場 HACCP の認定を検討したい」「取得準備中」などと回答しています(P.26【問21】、P.40【問19】)。

- 停電対策は、酪農では「非常用発電機を購入した」と56.3%が回答していますが、未導入の酪農家に対する対策が必要です(P.26【問23】)。養鶏では100%が「非常用発電機を購入した」と回答しています(P.40【問21】)。

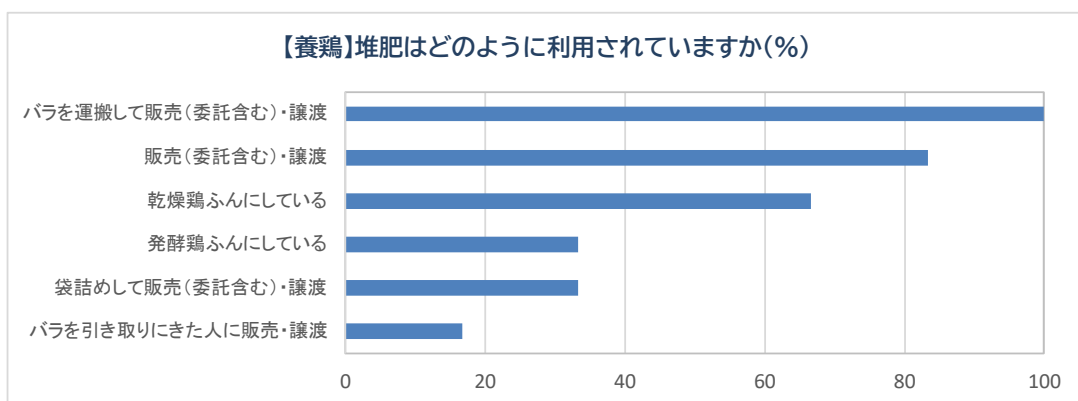
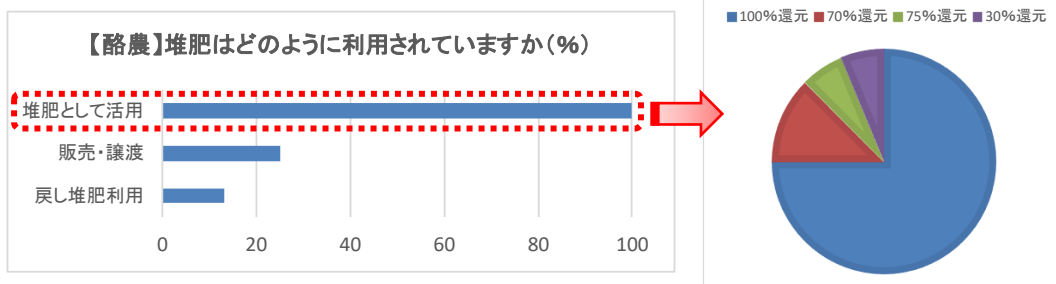
(3) 「みどりの食料システム戦略」に基づく、持続可能な畜産業の構築と都市農業における畜産環境対策が必要です。

課題の背景

- ・畜産経営においては、家畜ふん尿処理を適切に行い、周辺環境へ配慮した経営を行うことが不可欠となっており、堆肥化処理された家畜ふん堆肥の利用拡大が進められてきました。
- ・一方、畜産に関わる臭気問題は、畜産を取り巻く生活環境の中で問題となっています。

～畜産農家アンケート～

- ・家畜排せつ物や臭気に係る問題は、酪農では50.0%が「あり」と回答しており、そのうち、62.5%は「以前は苦情があったが今は改善され苦情はない」とある一方、37.5%は依然として近隣からの苦情があり解決したいと回答しています (P.25【問18】)。
- ・堆肥の利用は、酪農では「飼料畑に還元」と100%が回答しており、そのうち、全量還元しているのは75.0%となっています。また「販売・譲渡」と25.0%が回答しています (P.24【問16】)。養鶏では「販売・譲渡」と100%が回答しています (P.38【問13】)。



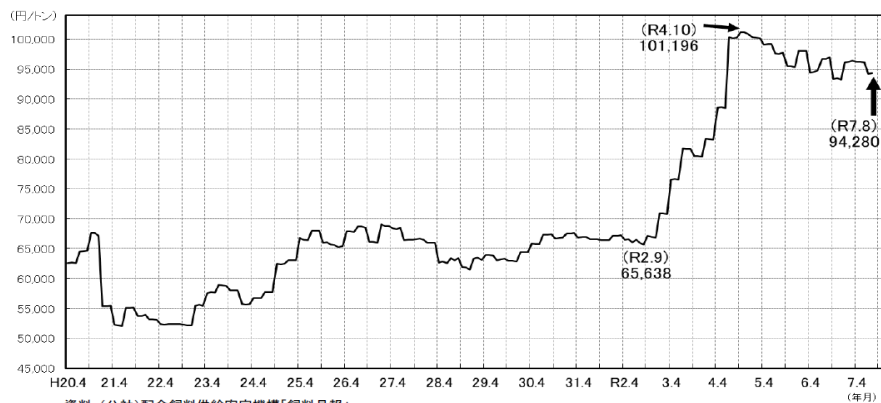
- ・堆肥の販売・譲渡可能な量は、各畜種とも相当量が見込まれることから、耕種農家など利用者のニーズに合わせた堆肥を生産し、利用拡大をさらに進めていく必要があります。

- (4) 輸入飼料への依存度が高く、経済動向に左右されやすいため、自給飼料の生産や耕畜連携が必要です。

課題の背景

- 畜産経営コストの4～7割程度を飼料費が占めているものの、飼料の多くを輸入に依存しています。国際情勢に左右されにくい持続的な畜産物生産のためには、自給飼料に立脚した畜産への転換を推進することが必要です。

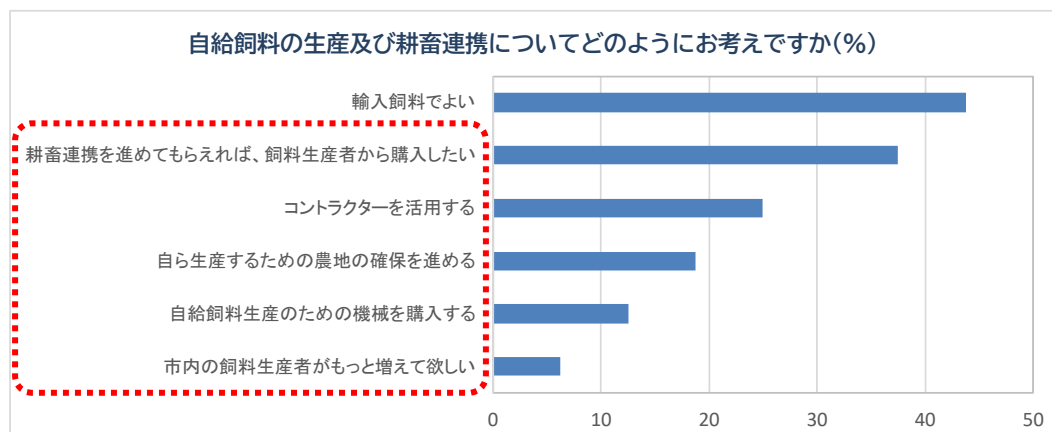
○配合飼料工場受渡価格の推移



資料：農林水産省『飼料をめぐる情勢』

～畜産農家アンケート～

- 経営で影響を受けている要因は、「飼料価格の高止まり」と、酪農では100%が、養鶏では66.7%が捉えています (P.22【問7】、P.37【問7】)。また、経営上困っていることは、「飼料費・資材費の高騰」と酪農では87.5%が、養鶏では66.7%が回答しています (P.27【問26】、P.41【問24】)。
- 酪農では、粗飼料(飼料用トウモロコシなど)を56.3%が作付けしていますが、「自給飼料生産農地の不足」と25.0%が回答しています (P.23【問10】、P.27【問26】)。
- 自給飼料の生産に関しては、「輸入飼料でよい」と43.8%が回答しているものの、「耕畜連携を進めてもらえれば、飼料生産者から購入したい」と37.5%が、「コントラクターを活用する」と25.0%が回答するなど、自給飼料の使用割合を高める意向が伺えます (P.29【問28】)。

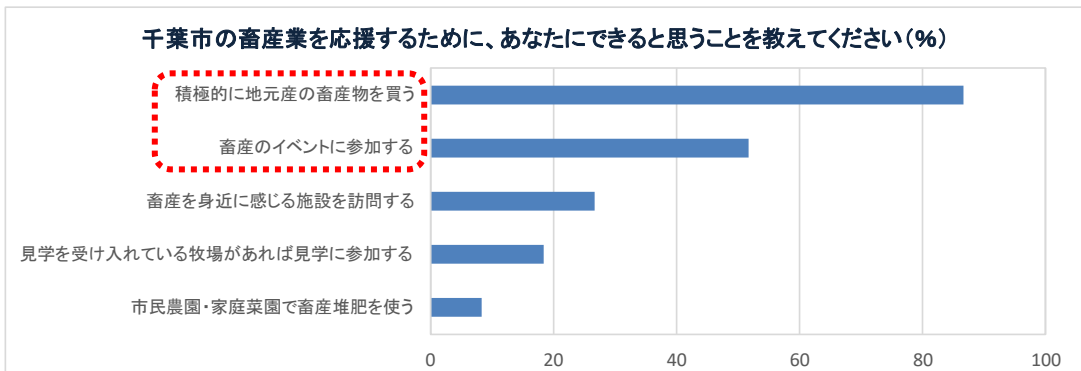


(5) 都市部で畜産業を継続するには消費者である市民の理解が必要です。

課題の背景

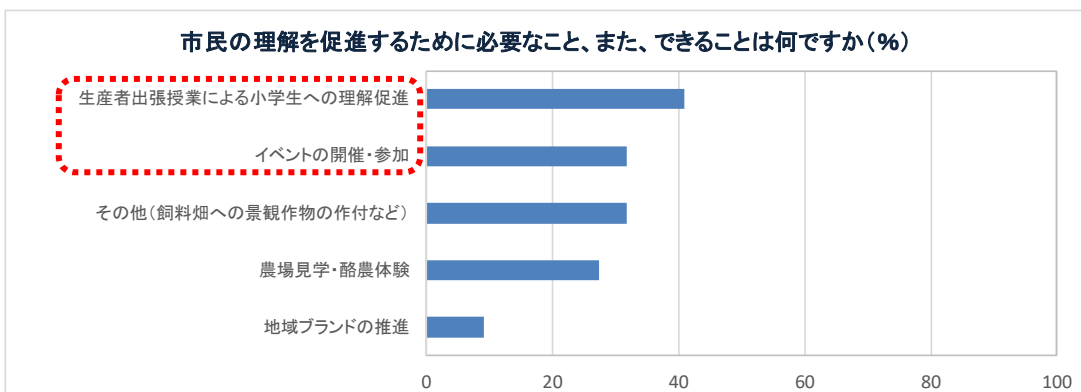
～市民アンケート～

- ・「千葉市は畜産が盛んであることを知っている、多少は知っている」と71.7%が、「畜産の中で特に酪農が盛んであることを知っている、多少は知っている」と75.0%が回答しています (P.43【問1、2】)。
- ・「地元産の新鮮な畜産物が手に入ることはよい」と85.0%が、「家畜の飼育は毎日のことなので大変であるが、頑張ってもらいたい」と53.3%が、「学校給食で地元産の牛乳が提供されていることはよい」と51.7%が回答しています (P.43【問4】)。
- ・本市の畜産業を応援できることは、「積極的に地元産の畜産物を買う」と86.7%が、「畜産のイベントに参加する」と51.7%が回答しています (P.43【問5】)。



～畜産農家アンケート～

- ・市民の理解を促進するために必要なこと、また、できることとして、酪農と養鶏を合わせて「生産者出張授業による小学生への理解促進」と40.9%が、「イベントの開催・参加」と31.8%が回答しています (P.29【問29】、P.42【問26】)。



- ・本市において酪農や生乳生産を続けていく意義として、「本市の千葉酪農農業協同組合から生産された牛乳が市内の学校給食に提供されている」と75.0%が、「都市に近い場所での「顔の見える酪農」による農業への理解促進につながる」と62.5%が回答しています (P.29【問30】)。

Ⅲ 畜産振興の目指す方向性

Ⅰ 本市畜産業の目指すべき方向性

【市のあるべき姿】

市内で食料（農畜産物）を生み出し続け、市民の食と暮らしを支える魅力ある成熟都市

方向性①：「酪農」が本市畜産業を牽引！

畜産業の中で、千葉県は酪農発祥の地であり、とりわけ本市は古くから酪農が盛んで、現在畜産部門で一番多い17戸の酪農家が存在します。昭和43年には、若葉区富田町に市直営の「乳牛育成牧場」を整備し、これまでに多くの酪農家が仔牛の育成を目的に利用し、本市酪農の振興に寄与してきました。令和2年4月には千葉ウシノヒロバ（株式会社千葉牧場が運営）が跡地を活用し、現在も乳牛の仔牛を育成する預託事業を行っています。

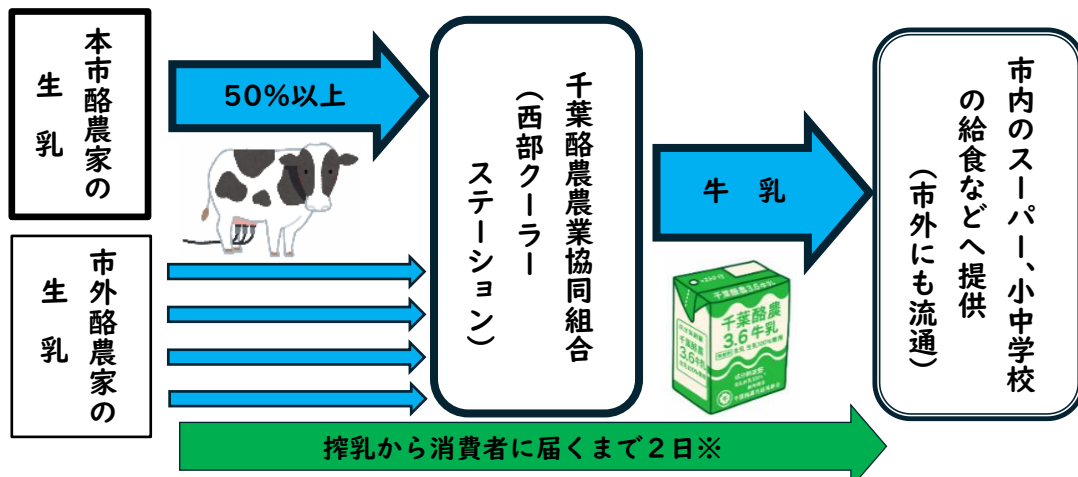
また、本市酪農の草創期の昭和28年には、「下志津原酪農農業協同組合」が当時開拓地の多かった本市の長沼原町に設立され、生乳の集荷・輸送・販売事業を開始しました。後年「千葉酪農農業協同組合」と名称変更し、さらに事務所、乳製造工場の若葉区富田町への移転及び「土気酪農農業協同組合」との合併を経て現在に至っています。

この乳製造工場は、県内の西部地域をまとめて合理化された西部クーラーステーションとして、市内酪農家の生乳はもとより近隣市の生乳が合乳され（本市生乳の占有率は50%以上）、生乳の生産地である牧場に近いという強みを活かした「新鮮な」「千葉酪農牛乳」が乳製品とともに、これまで市民及び小中学校の給食に提供され続けてきました。

一方、酪農家が利用する飼料畑に目を向けると、緑区・若葉区を中心に飼料作物（飼料用トウモロコシ、飼料用稲など）が栽培されており、近年は「耕畜連携」により、酪農家が自ら耕作するだけでなく、耕種農家から飼料作物の提供を受けるとともに、酪農家が製造した堆肥が市内耕種農家に利用され、地域資源が循環利用されていて、耕作放棄地の未然防止にもつながっています。

このことから、「酪農」を本市畜産業の中核と位置付けるとともに、法人経営している大規模酪農家、雇用経営している酪農家及び家族経営で今後も経営継続の意向がある後継者のいる酪農家が事業を継続し、畜産経営が安定化していくことを畜産振興の柱とします。

< 生乳から加工されて牛乳ができるまで >



※【遠隔地産の場合】搾乳から消費者に届くまで通常3～5日

※生成 AI が生成したイラストを一部使用しています。

方向性②：「家畜伝染病や自然災害等へのリスクに対する備え」は必須！

すべての畜種（牛、豚、鶏）において、家畜伝染病のまん延や大型台風の発生などは、畜産経営上の脅威であり、家畜伝染病や自然災害等に対する危機管理の強化は共通した重要課題であるため、本市の畜産物の安定的な生産と安全性の確保に向け、「家畜伝染病や自然災害等へのリスクに対する備え」をもう一つの畜産振興の柱とします。

2 方針

(1) 労働生産性や収益性改善のため、省力化機械等の導入や、飼養環境の改善、継続的な乳用後継牛の確保支援などにより、生産性及び経営力の向上を図ります。

(2) 家畜伝染病や自然災害等の発生に備え、畜産物の安定的な生産と安全性を確保するため、家畜衛生対策及び危機管理の充実・強化を図ります。

(3) 持続可能な畜産業の構築と都市農業における畜産環境対策を推進するため、環境と調和のとれた畜産経営の促進を図ります。

(4) 輸入飼料価格変動の影響を受けない安定的な畜産経営を確立するため、自給飼料の生産と利用拡大を図ります。

(5) 都市部での畜産業を継続するため、畜産業に対する消費者理解の向上を図ります。

3 施策の体系

施 策	持続的な畜産業の推進
(1) 生産性及び経営力の向上	ア 省力化機械・スマート技術等の導入 イ 乳用後継牛の確保 ウ 暑熱対策の推進 エ 労働力の確保
(2) 家畜衛生対策及び危機管理の充実・強化	ア 飼養衛生管理基準の徹底 イ 家畜伝染病の予防対策 ウ 農場HACCPやトレーサビリティの導入 エ 自然災害等への備え
(3) 環境と調和のとれた畜産経営	ア 家畜排せつ物の適正処理 イ 堆肥生産及び資源循環の推進 ウ 臭気対策の推進
(4) 自給飼料の生産と利用拡大	ア 自給飼料の生産・利用拡大 イ 耕畜連携の推進
(5) 消費者理解の向上	ア 畜産業の意義や生産者の努力に対する市民の理解向上
＊本指針の対象期間（令和8年度～9年度）以降は、令和9年度に策定を予定している「農業基本計画（令和10年度～14年度）」で見直しを検討します。	

IV 課題ごとの施策の展開

I 生産性及び経営力の向上

(1) 省力化機械・スマート技術等の導入

○近年、農業機械や資材費等が高騰しているなか、畜産経営の省力化や生産性の向上、事故率の低減を図るため、市単独補助事業「未来の千葉市農業創造事業（経営拡大支援タイプ）」や国庫補助事業の活用により、省力化機械やスマート機械・機器等の導入、機械や施設の整備及び施設の増築等を支援します。

(2) 乳用後継牛の確保

- 本市畜産業の中核を担う酪農業の継続に必要な乳用後継牛を確実に確保するため、市内預託牧場に乳牛を預託する酪農家に対し、預託料金値上げ分の一部を支援するとともに、市内預託牧場の活用を酪農家に働きかけていきます。
- 乳牛の生乳生産性を向上させるため、本市畜産業の推進母体である千葉市畜産協会を通じて、市単独補助事業「優良後継牛確保対策事業」により、性判別精液や受精卵の活用による効率的な優良後継牛の増頭・確保を支援します。

(3) 暑熱対策の推進

○近年の異常気象による高温は今後も続くと予測され、夏場の家畜の生産性の低下及び死亡につながることから、家畜の暑熱ストレスを低減するため、市単独補助事業「未来の千葉市農業創造事業（経営拡大支援タイプ）」や国庫補助事業を活用し、暑熱対策の取組を支援します。

(4) 労働力の確保

- 労働力の確保とともに年間労働時間の削減と休日の確保を図るため、法人経営のみならず、家族経営においても積極的に雇用や国の「外国人技能実習制度」に基づく特定技能外国人及び技能実習生の活用を、また、酪農家においては酪農ヘルパーの活用を促進します。
- 酪農ヘルパーの取組を支援するため、本市畜産業の推進母体である千葉市畜産協会を通じて、市単独補助事業「農林業団体育成事業」により、酪農ヘルパー組合に対して支援します。
- 労働負担の軽減を図るため、飼養管理の省力化等につながる預託牧場の活用や、耕畜連携の取組による粗飼料を中心とした自給飼料の生産・利用を推進します。

2 家畜衛生対策及び危機管理の充実・強化

(1) 飼養衛生管理基準の徹底

- 家畜の伝染性疾病の発生を予防するため、千葉県西部家畜保健衛生所の指導のもと「飼養衛生管理基準」の遵守やワクチン接種、衛生検査等を推進します。
- 畜産経営に甚大な被害を及ぼす口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ、豚熱等の発生に備えるため、地域が一体となった防疫体制の堅持やまん延防止対策の強化を図ります。また、千葉県西部家畜保健衛生所及び千葉県農業共済組合西部家畜診療所との連携を密にし、疑わしい症状があった場合には畜産農家が直ちに報告する体制を維持します。

(2) 家畜伝染病の予防対策

- 家畜の伝染性疾病の発生を予防するため、本市畜産業の推進母体である千葉市畜産協会を通じて、市単独補助事業「家畜伝染病予防対策事業」により、市内で飼養されている家畜に対して行う、家畜伝染病等の予防のための検査、予防接種又はワクチン投与に対し助成するとともに、家畜伝染病予防を目的に行う消毒剤の購入に対し助成します。
- 国内で頻発している高病原性鳥インフルエンザ及び豚熱の発生に備えるため、畜産農家を対象に消石灰を配布するとともに、農政センターに消石灰を備蓄し、必要となった畜産農家に配布できる体制を維持します。

(3) 農場HACCPやトレーサビリティの導入

- 畜産物の安全性の確保及び生産性の向上を図るため、個々の畜産農場における衛生管理を向上させ、農場から消費者までの一貫した衛生管理を行う「農場HACCP」の取組を推進します。
- 消費者に対して畜産物及び加工品の安全性や品質を保証するため、農場で飼育環境、飼料の内容、ワクチンの使用履歴など、詳細な情報を管理する「トレーサビリティ（追跡可能性）」の取組を推進します。

(4) 自然災害等への備え

- 本市は「令和元年台風」の被害を受け、畜産農家とりわけ酪農家は、長期の停電等により甚大な影響を受け、生乳の廃棄を余儀なくされたことから、近年、多発している自然災害等の発生に備えるため、自らがBCPに基づくチェックリストを確認し、リスクに備える取組を支援します。
- 畜産農家が非常用発電機を常設し、万が一の停電に備える必要があるため、市単独補助事業「未来の千葉市農業創造事業（経営拡大支援タイプ）」により、導入を支援します。
- 台風や地震等に伴う被害の発生防止のため、農政センター内に設置した貸出用発電機を適切に維持管理し、有事の際は速やかに畜産農家に貸出します。

3 環境と調和のとれた畜産経営

(1) 家畜排せつ物の適正処理

○家畜排せつ物の適正処理を推進するため、「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律（家畜排せつ物法）」に基づき、千葉県と連携して指導・助言を行います。

(2) 堆肥生産及び資源循環の推進

○国の「みどりの食料システム戦略」に即した、地域での持続可能な農業を行うため、耕種農家のニーズに合わせた堆肥を生産し、資源循環を推進します。

○畜産農家が生産する堆肥を耕種農家に供給するため、土壌診断を活用して堆肥成分を分析し、耕種農家に情報提供するとともに、堆肥流通モデルを検証します。

(3) 臭気対策の推進

○都市部に隣接する家畜生産農場にとって臭気の低減と抑制は必須の課題であることから、地域と調和した畜産経営を確立するため、畜産農家と関係機関が連携して、原因を究明し対策を講じます。

○臭気対策を推進するため、市単独補助事業「未来の千葉市農業創造事業（経営拡大支援タイプ）」により、臭気対策設備の導入を支援します。

4 自給飼料の生産と利用拡大

(1) 自給飼料の生産・利用拡大

○畜産農家とりわけ酪農家が餌として使用する飼料は海外への依存度が高く、飼料価格が高騰・高止まりし、畜産経営を圧迫していることから、自給飼料を安定的に生産するため、農業委員・農地利用最適化推進委員と連携し、飼料作物の作付地を確保します。

○自給飼料の生産や利用拡大を図るため、市単独補助事業「未来の千葉市農業創造事業（経営拡大支援タイプ）」により、自給飼料生産に必要な機械の導入を支援します。

(2) 耕畜連携の推進

○畜産農家の持続性確保と経営向上を図るため、畜産農家が生産する堆肥を活用し、耕種農家が生産した飼料作物を畜産農家が利用する「耕畜連携」を推進します。

○畜産農家が生産する堆肥を活用し、耕種農家が生産する飼料作物（飼料用トウモロコシ）、稲わら及び稲WC Sを畜産農家に供給するため、長期的な目線で連携を維持できる作業スキームを構築します。スキーム構築にあたっては、千葉市耕畜連携推進協議会のモデル地区（わかば部会、みどり部会）において検討していきます。

< 耕畜連携の取組 >



5 消費者理解の向上

(1) 畜産業の意義や生産者の努力に対する市民の理解向上

- 市民の畜産業に対する理解を深め、都市部での畜産業を持続させるため、都市住民に向けた畜産農家の見学会や酪農体験、畜産関連イベント等の機会を創出し、畜産物が生産される過程等について実地に理解を深められるよう努めます。
- 本市で生産された生乳のほとんどが、若葉区富田町の千葉酪農農業協同組合の工場
で牛乳として生産され、学校給食をはじめ「千葉酪農牛乳ブランド」として供給されて
います。この認知度を高め、次代を担う子どもたちの畜産業に対する理解を深める
ため、小学校での学校給食の場で、生産者が先生となった出張授業を実施します。

V 指針の推進に向けて

1 進行管理

千葉市畜産振興指針の実効性を高めるため、千葉市農政推進協議会※において、施策、事業の進捗状況や成果指標の達成状況を毎年点検、検証し、翌年以降の施策、事業の遂行に反映していきます。

※農政推進協議会：農業振興地域整備計画や農業経営改善計画の認定に関する事項、農業基本計画の進捗管理等について審議する附属機関であり、12人の委員で構成されている。

2 成果指標

項目	現状 (R7年度)	目標 (R9年度)
□市内の年間生乳生産量	13,134t ※令和6年1月～12月	13,134t
□急性悪性家畜伝染病発生予防	100%	100%
□非常用発電機の所有	67%	75%
□耕畜連携による飼料作物生産面積	46ha	55ha
□【大人向け】イベント参加による市民理解の向上	—	参加後の理解度の向上
□【子ども向け】生産者による出張授業（牛乳）参加による児童理解の向上	—	参加後の理解度の向上

3 期待される役割

本市の畜産を持続させるためには、畜産に関係する各主体がそれぞれの役割を認識し、連携して取り組んでいくことが重要です。各主体に期待される役割は次のとおりです。

(1) 市民

市民には、市内産畜産物を購入し、消費する地産地消の推進や、都市と農村の交流を通じて、畜産への理解を深める等、本市畜産を支えていく役割が期待されます。

(2) 農業者（畜産農家及び耕種農家）

畜産農家には、自らの畜産生産活動を更に発展させ、消費者へ新鮮で安全安心な畜産物を安定的に供給するとともに、耕種農家には堆肥の有効活用と飼料作物の生産、畜産農家への提供の役割が期待されます。

(3) 畜産団体（千葉市畜産協会及び千葉酪農農業協同組合）

千葉市畜産協会には、会員相互の連絡協調と畜産経営の合理化を促進し、本市畜産の発展に資するため、多様な側面から畜産農家をサポートする役割が期待され、千葉酪農

農業協同組合には、組合員である酪農家のみならず、敷地内の西部クーラーステーションを通じて、市内酪農家の生乳から牛乳及び乳製品を製造していることから、酪農振興を多様な側面からサポートする役割が期待されます。

(4) 市

市は、市民の畜産に対する理解向上を促進するとともに、畜産農家の経営発展の支援はもとより、関係機関や農業団体との連携を強化し、畜産の振興施策を展開することで、本市畜産の持続性の確保に努めます。

VI 畜産農家アンケート調査結果

<アンケートの概要>

- 1 調査の目的 本指針を策定するにあたり、畜産農家の現状と意見を把握する。
- 2 調査対象 市内で経営する畜産農家（酪農、養豚、養鶏（採卵鶏、ブロイラー）
※肉牛1件は小規模経営のため参考で聞き取り
- 3 調査期間 令和7年8月12日～10月2日
- 4 調査方法 対面による聞き取り
- 5 回答率 96%（対象数：24件、回答数：23件）※肉牛1件は除く

I 酪農

(1) 現在の経営の状況等をお聞きます。

【問1】経営者（農業経営の主力となられる方）の年齢をお答えください。（1つだけに○）

- | | |
|-----------|----|
| 1. 20歳代 | 0件 |
| 2. 30歳代 | 1件 |
| 3. 40歳代 | 4件 |
| 4. 50歳代 | 3件 |
| 5. 60歳代 | 5件 |
| 6. 70歳代以上 | 3件 |

【問2】経営者を含めた従事者の人数をお答えください。（1つだけに○）

- | | |
|---------|----|
| 1. 1人 | 3件 |
| 2. 2人 | 3件 |
| 3. 3人 | 3件 |
| 4. 4人 | 4件 |
| 5. 5人以上 | 3件 |

【問3】現在、経営形態（労働力）はどのようになっていますか。（1つだけに○）

- | | |
|-------------|-----------------------------|
| 1. 家族労働力のみ | 7件 |
| 酪農ヘルパーを活用 | 5件 |
| 2. 家族労働力+雇用 | 7件 |
| 雇用 | 7件（内訳 1人：4件、2人：2件、3人：1件） |
| うち特定技能外国人雇用 | 3件（内訳 1人：3件） |
| | ⇒国籍：インドネシア、タイ、ベトナム |
| 酪農ヘルパーを活用 | 3件 |
| 3. 雇用のみ | 2件 |
| 雇用 | 2件（内訳 16人：1件、24人：1件） |
| うち特定技能外国人雇用 | 2件（内訳 7人：1件、10人：1件） |
| | ⇒国籍：インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、中国 |

【問4】経営形態(収入)についてお答えください。(1つだけに○)

- | | |
|------------------------|-----|
| 1. 農業収入のみ | 15件 |
| 2. 農業以外にも収入があるが農業収入が多い | 1件 |
| 3. 農業以外の収入が多い | 0件 |

【問5】酪農経営の収入はどの程度ですか。(1つだけに○)

- | | |
|------------------------|----|
| 1. 年間100万円未満 | 6件 |
| 2. 年間100万円以上、300万円未満 | 6件 |
| 3. 年間300万円以上、500万円未満 | 2件 |
| 4. 年間500万円以上、1,000万円未満 | 1件 |
| 5. 年間1,000万円以上 | 1件 |
| 6. 答えたくない | 0件 |

【問6】酪農経営の収入は5年前に比べていかがですか。(1つだけに○)

- | | |
|------------|-----|
| 1. 減少している | 13件 |
| 2. 現状維持である | 2件 |
| 3. 増加している | 1件 |

【問7】酪農経営で影響を受けている要因は何ですか。(複数回答可)

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1. 円安による経営圧迫 | 16件 |
| 2. 原油高 | 12件 |
| 3. 飼料価格の高止まり | 16件 |
| 4. 農機具・資材費の高騰 | 13件 |
| 5. 人手不足 | 2件 |
| 6. 乳価が上がらない | 7件 |
| 7. 子牛価格の下落 | 11件 |
| 8. その他 | 1件(父が亡くなったこと(5、6年前)) |

【問8】所有・借り入れしている農地は、主にどの地域にありますか。(区名・町名を記入)

- | | | |
|---------|-------|----|
| 1. 緑区 | 下大和田町 | 5件 |
| | 上大和田町 | 1件 |
| | 高田町 | 4件 |
| | 大木戸町 | 1件 |
| 2. 若葉区 | 野呂町 | 1件 |
| | 古泉町 | 1件 |
| | 富田町 | 1件 |
| | 上泉町 | 1件 |
| 3. 花見川区 | 大日町 | 1件 |

【問9】現在、所有及び借入、貸出している農地面積はどれぐらいですか。

- | | |
|---------------|--|
| 1. 所有している農地面積 | 16件 |
| 畑 | <内訳>100a 未満:2件、100a 以上~200a 未満:6件、200a 以上:8件 |
| 牛舎等施設 | <内訳>100a 未満:12件、100a 以上:4件 |
| 2. 借入している農地面積 | 11件 |
| 畑 | <内訳>100a 未満:4件、100a 以上~200a 未満:1件、200a 以上:4件 |
| 牛舎等施設 | <内訳>100a 以上~200a 未満:1件 |
| 3. 貸出している農地面積 | 4件 |
| 畑 | <内訳>100a 未満:1件、100a 以上~200a 未満:1件、200a 以上:2件 |

【問10】現在、粗飼料用に耕作している草地面積はどれぐらいですか。

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 飼料用トウモロコシ(デントコーン) | 9件 |
| | <内訳>500a 未満:4件、500a 以上~1,000a 未満:3件、1,000a 以上:2件 |
| 2. イタリアンライグラス | 3件 |
| | <内訳>500a 未満:1件、500a 以上~1,000a 未満:1件、1,000a 以上:1件 |
| 3. 飼料用稲 | 0件 |
| 4. その他 | 7件(作っていない7件) |

【問11】現在、年間購入している粗飼料はどれぐらいですか。

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 乾牧草 | 16件 |
| | <内訳>100t 未満:7件、100t 以上~200t 未満:4件、200t 以上:5件 |
| 2. 飼料用トウモロコシ(デントコーン) | 2件 |
| | <内訳>100t 以上~200t 未満:1件、200t 以上:1件 |
| | 販売者:市内飼料作物耕作者、市原市飼料作物耕作者 |
| 3. 飼料用稲(稲WCS) | 1件 |
| | <内訳>200t 以上:1件 |
| | 販売者:市内水稻生産法人 |
| 4. その他の粗飼料 | 4件 |
| ・ビート | 1件 |
| ・TMR | 5件(自家作成:4件、TMRセンター委託:1件) |

【問12】現在、年間購入している配合飼料はどれぐらいですか。

- | | |
|-------------------|--|
| 1. 配合飼料 | 16件 |
| | <内訳>100t 未満:3件、100t 以上~200t 未満:8件、200t 以上:5件 |
| 2. 配合飼料価格安定制度への加入 | 16件 |
| ・加入している | 15件 |
| ・加入していない | 1件 |

【問13】現在、乳牛の飼養頭数は何頭ですか（令和7年7月1日現在）。

- | | |
|---|-----|
| 1. 乳牛の成牛 | 15件 |
| <内訳>50頭未満:11件、50頭以上~100頭未満:2件、100頭以上:2件 | |
| 2. 乳牛の育成牛※預託頭数は除く | 14件 |
| <内訳>10頭未満:7件、10頭以上~50頭未満:5件、50頭以上:1件 | |

【問14】子牛の育成はどのようにされていますか。（複数回答可）

- | | |
|-----------------------|----|
| 1. 自家育成 | 5件 |
| 2. 預託（該当する項目に☑してください） | 9件 |
| ・千葉県乳牛育成牧場に預託 | 2件 |
| ・千葉ウシノヒロバに預託 | 5件 |
| ・北海道の預託牧場に預託 | 6件 |
| ・岩手県葛巻の預託牧場に預託 | 6件 |
| ・その他 | 2件 |
| 導入のみ | 1件 |
| 自家育成も預託もやらない（現状維持） | 1件 |

【問15】千葉ウシノヒロバ（預託牧場）の利用についてお聞きます。（複数回答可）

- | | |
|--|-----------|
| 1. 現在利用しているが、今後も利用したい | 2件 |
| 2. 現在利用しているが、今後は利用しない | 3件 |
| 3. 現在利用していないが、今後は利用したい | 0件 |
| 4. 現在利用していないし、今後も利用しない | 7件 |
| 5. 他の預託牧場で間に合っているが、冬期に預けられないため、12月入牧を利用したい | 1件 |
| 6. 旧乳牛育成牧場では利用していたが、事業者が民間になって利用しなくなった | 0件 |
| 7. 自家育成のため預託の必要性がない | 3件 |
| 8. その他 | 1件（導入を検討） |

【問16】堆肥はどのように利用されていますか。（複数回答可）

- | | |
|-----------------------------------|-----|
| 1. 飼料畑に還元 | 16件 |
| <内訳>100%:12件、75%:1件、70%:2件、30%:1件 | |
| 2. 戻し堆肥使用 | 2件 |
| <内訳>60%:1件、20%:1件 | |
| 3. 販売・譲渡 | 4件 |
| <内訳>30%:2件、10%:1件、5%:1件 | |
| 販売・譲渡先:耕種農家 | |
| 4. 販売したいが運ぶ手段がない | 0件 |
| 5. その他 | 0件 |

【問17】堆肥の販売・譲渡についてお聞かせください。(複数回答可)

1. 販売・譲渡価格	4件
・バラ 2,500円/t	1件
8,000円/2t	1件
10,000円/3t	1件
譲渡	1件
・袋(11kg) 440円	1件
2. 販売・譲渡方法	
・引き取り	1件
・運搬	3件
・散布	0件
・店頭	1件
・その他	0件
3. 販売・譲渡可能な量	
・600t	1件
・300t	1件
・50t	1件
・販売・譲渡していない	12件

【問18】家畜排せつ物や臭気に係る問題がありますか。(1つだけに○)

1. なし	8件
2. あり(該当する項目に☑してください)	8件
・近隣からの苦情が頻繁にあるため解決したい	1件
・時期によって苦情があることもある	1件
・以前は苦情があったが今は改善され苦情はない	5件
・その他	1件(ハエ)

【問19】スマート技術の導入についてどうお考えですか。(複数回答可)

1. 自動搾乳システム	3件
2. 発情・分娩モニタリング	6件
3. 牛群管理ソフト	4件
4. 自動給餌・給水システム・清掃システム	9件
5. 環境モニタリング	0件
6. 画像・映像解析	1件
7. その他	7件(導入ない・関心ない)

【問20】夏季の高温化が進んでいますが、暑熱対策はどのようにしていますか。(複数回答可)

- | | |
|-------------------------------|-----|
| 1. 牛舎の換気や送風を行う | 16件 |
| 2. 牛舎に遮光ネットを設置する | 3件 |
| 3. 屋根の断熱を行う | 3件 |
| ・石灰塗布:1件、今後太陽光発電パネル設置:1件 | |
| 4. 給水の管理を徹底する | 2件 |
| 5. 飼養管理上の対策を行う | 2件 |
| ・重曹を与える:1件、餌を与える時間・メニューの改善:1件 | |
| 6. 頭数密度を調整する | 2件 |
| 7. 牛の健康管理を日々チェックする | 16件 |
| 8. その他 | |
| ・ミスト | 11件 |
| ・牛にホースで散水 | 1件 |
| ・牛舎に散水 | 1件 |
| ・体温を下げるサプリメントを投与 | 1件 |

【問21】農場HACCP(ハサップ)の取組についてどうお考えですか。(複数回答可)

- | | |
|-------------------------------|----------------|
| 1. 農場HACCPの手法は今後畜産経営において重要である | 9件 |
| 2. 今後農場HACCPの認定を検討したい | 1件 |
| 3. 言葉を知らなかったが興味はある | 0件 |
| 4. 取組んでみたいがどうしたらよいかわからない | 0件 |
| 5. 聞いたことはあるが関心がない | 6件 |
| 6. その他 | 1件(取得準備中(R8年)) |

【問22】トレーサビリティの取組についてどうお考えですか。(複数回答可)

- | | |
|--------------------------------|-----|
| 1. トレーサビリティの手法は今後畜産経営において重要である | 0件 |
| 2. 今後トレーサビリティの取組を検討したい | 0件 |
| 3. 言葉を知らなかったが興味はある | 0件 |
| 4. 取組んでみたいがどうしたらよいかわからない | 0件 |
| 5. 聞いたことはあるが関心がない | 0件 |
| 6. その他 | 16件 |
| ・やっている | 15件 |
| ・今はやっていない | 1件 |

【問23】台風等の自然災害への備え及び停電対策はどのようにしていますか。(複数回答可)

- | | |
|---------------------------------|----|
| 1. 非常用発電機を購入した | 9件 |
| 2. 非常時にはレンタル会社から非常用発電機をレンタルする予定 | 6件 |
| 3. 非常用発電機を購入予定であるが、まだ導入できていない | 2件 |
| 4. その他 | 0件 |

(2) 10年後を見据えた今後の酪農経営についてお聞きます。

【問24】酪農経営に後継者はいますか。(1つだけに○)

- | | |
|-------------------------------------|-----------|
| 1. すでに就いている(兼業含む) | 3件 |
| 2. 今は就いていないが、いずれ就農する | 1件 |
| 3. 継ぐかわからない | 5件 |
| 4. 後継者は、継ぐことを希望していないが、経営者としては継がせたい | 0件 |
| 5. 後継者は、継ぐことを希望しているが、経営者としては継がせたくない | 0件 |
| 6. 後継者がいなくて困っている | 1件 |
| 7. 後継者がいないが困っていない | 5件 |
| 8. その他 | 1件(わからない) |

【問25】酪農経営の規模について、どのようにお考えですか。(1つだけに○)

- | | |
|-------------------------------|------------|
| 1. 拡大したい | 1件 |
| ・拡大したい農地面積:畑 1,500a、成牛頭数:現状維持 | |
| 2. 現状を維持する | 11件 |
| 3. 縮小したい | 2件 |
| ・縮小したい農地面積:畑:300a、現状維持 | |
| ・成牛頭数:43頭→30頭、62頭→55頭 | |
| 4. 酪農は廃業予定 | 2件(すぐではない) |
| 5. 経営の継承をしたい(親戚、外部の法人) | 0件 |
| 6. 酪農は廃業するが、雇用されて酪農と関わりたい | 0件 |

【問26】酪農経営上困っていることはありますか。(複数回答可)

- | | |
|-------------------------|-----|
| 1. 施設・機械の老朽化 | 12件 |
| 2. 飼料費・資材費の高騰 | 14件 |
| 3. 機械導入価格が高い(スマート機器含む) | 11件 |
| 4. 乳価が安い | 10件 |
| 5. 子牛の売払い価格が安い | 7件 |
| 6. 乳生産や繁殖の成績不振 | 4件 |
| 7. 家畜の疾病が多い | 1件 |
| 8. 後継牛の確保(導入価格、妊娠牛不足など) | 3件 |
| 9. 預託料金や預託牛の仕上がり | 1件 |
| 10. ふん尿処理・堆肥利用・臭気問題 | 6件 |
| 11. 自給飼料生産農地の不足 | 4件 |
| 12. 夏季の高温問題 | 10件 |
| 13. 有害鳥獣による被害 | 7件 |
| 14. 後継者がいない | 2件 |
| 15. 研修の機会が少ない | 0件 |

16. 指導者が少ない	1件
17. 借入金の返済	4件
18. 雇用したいが賃金が高い・募集してもこない	2件
19. 色々な制度があってわかりにくい	4件
20. その他	1件 (労働力確保)
21. 上記の困っていることをどう解消しますか	18件
・分業して継ぎやすくする (耕畜連携、TMRの活用)	1件
・お金がないとできない	1件
・補助金の活用	4件
・円高にならないと解決しない	1件
・安い後継牛が出てくるのを待つ	1件
・わからない・特にない	2件
・解消はしないが続けていける方法を考える	1件
・自己資金で乗り切る	1件
・どうにもならない	1件
・1頭当たりの搾乳量を増やす	1件
・自己努力で頑張る	1件
・普段からの管理により牛の成績 (搾乳量) を上げる	1件
・じっと耐える	1件
・関係組織に頑張ってもらう	1件

【問27】酪農経営を継続するために、特に必要な市の支援策はどれですか。(3つまでに○)

1. 自給飼料の確保	5件
2. 資金 (融資)	3件
3. 雇用労働力の確保	2件
4. 各種補助	9件
・施設整備や機械導入 (スマート機器含む)	6件
・家畜衛生対策 (予防接種・ワクチン接種)	7件
・後継牛確保 (性判別精液・受精卵)	6件
・預託料金負担軽減	5件
・その他	0件
5. 家畜排せつ物や臭気対策	2件
6. 市民の酪農に対する理解	4件
7. その他	3件
・特にない	2件
・自分でやる	1件

【問28】自給飼料の生産及び国産飼料の給与割合を高めていくために、自給飼料の生産及び
 耕畜連携についてどのようにお考えですか。(複数回答可)

1. 耕畜連携を進めてもらえれば、飼料生産者から購入したい	6件
2. 市内の飼料生産者がもっと増えて欲しい	1件
3. コントラクターを活用する	4件
4. 自ら生産するため農地の確保を進める	3件
5. 自給飼料生産のための機械を購入する	2件
6. 輸入飼料でよい	7件
7. その他	0件

【問29】畜産業(酪農)の意義や生産者の努力に対する市民の理解を促進するために必要なこと、
 また、できることは何ですか。(複数回答可)

1. 生産者出張授業による小学生への理解促進	8件
・千葉酪とともに生産者出張授業に参加	1件
2. イベントの開催・参加	7件
・県酪連主催のミルクフェスタに毎年参加	1件
3. 農場見学・酪農体験	5件
・千葉あそびで農場見学	1件
・過去に地元の学校の依頼を受け農場見学	1件
・酪農協経由で生協組合員が農場見学	1件
4. 地域ブランドの推進	1件
・千葉酪農牛乳	
5. その他	4件
・市民理解は大事	1件
・飼料畑への景観作物(ヒマワリ・コスモス)の作付	1件
・ない	2件

【問30】酪農は、特に本市畜産業の中樞を担い、牽引してきましたが、これからも他産地ではなく、
 本市において酪農や生乳生産を続けていく意義は何でしょうか。(複数回答可)

1. 牛乳は輸入がなく、地元の自給飼料等により生産された生乳は本市にとって貴重である	9件
2. 本市の千葉酪農農業協同組合から生産された牛乳が市内の学校給食に提供されている	12件
3. 自給飼料の生産や耕畜連携により地域資源の循環利用に貢献している	6件
4. 全国で酪農家が10,000戸割れしている中、酪農業の維持に貢献している	7件
5. 日常的に消費する農畜産物を市民に安定的に供給している	8件
6. 地域の食料自給率向上に貢献している	6件
7. 都市に近い場所での「顔の見える酪農」による農業への理解促進につながる	10件
8. その他	1件
・新鮮な牛乳を届けるには消費地に近い方がよい	1件

【問31】市民に対し、本市の酪農及び畜産が誇れる点は何だと思えますか。

- ・生乳を生産しているおかげで市民が新鮮な牛乳を飲める 7件
- ・生産地が消費地に近いので新鮮な牛乳を市民に届けられる 3件
- ※市内だけで完結しているのは貴重
(牧場→千葉酪・クーラーステーション→スーパー・学校等→市民)
- ・安心・安全な生乳を生産している 2件
- ・千葉県は酪農の発祥地・歴史が古い 2件
- ・飲んでいる牛乳が市内で生産されている 1件
- ・現在牛乳は輸入がないため、牛乳を飲むには生乳が必要である 1件
- ・都市近郊で継続してやっていること 1件
- ・自分の経営次第で生産を拡大できる 1件
- ・堆肥の地域への還元(家庭菜園など) 1件
- ・酪農の先進化が進んでいる(暑熱対策など) 1件
- ※千葉県の酪農家は新しいものを取り入れている
- ・農地を借りて飼料作物を生産していることから耕作放棄地の解消に貢献している 1件
- ・わからない 1件

◆今後の酪農施策等について、ご意見がありましたらお聞かせください。

- ・大規模農家だけでなく、小規模農家(家族経営)にも支援して欲しい 1件
- ・機械等の補助率を5/10にして欲しい 1件
- ・補助金は有難い 1件
- ・飼料代が高いため、搾乳量が増えないと乳量が増えない 1件
- ・乳量及び乳質を高めたい 1件
- ・生産に見合った乳価にならないと、今後生産できない 1件
- ・暑熱対策をしっかりとやれば収益が上がる 1件
- ・都市部での臭気対策 1件
- ・自分でやっていける経営にしていきたい 1件
- ・所得補償 1件
- ・以前より農家同士のコミュニケーションの場が少ない 1件
- ・酪農(畜産)の指導ができる人が欲しい 1件
- ・今は耐える時であるが、経済部の中小企業のエネルギー対策の農業版があるとよい 1件
- ・イノシシ対策の電気柵の補助が欲しい(飼料畑用) 1件

2 養豚 ※秘密保護の観点から、アンケート項目のみ掲載

(1) 現在の経営の状況等をお聞きます。

【問1】経営者（農業経営の主力となられる方）の年齢をお答えください。（1つだけに○）

1. 20 歳代、
2. 30 歳代、
3. 40 歳代、
4. 50 歳代、
5. 60 歳代、
6. 70 歳代以上

【問2】経営者を含めた従事者の人数をお答えください。（1つだけに○）

1. 1人、
2. 2人、
3. 3人、
4. 4人、
5. 5人以上

【問3】現在、経営形態（労働力）はどのようになっていますか。（1つだけに○）

1. 家族労働力のみ、
2. 家族労働力+雇用、
3. 雇用のみ

【問4】経営形態（収入）についてお答えください。（1つだけに○）

1. 農業収入のみ
2. 農業以外にも収入があるが農業収入が多い
3. 農業以外の収入が多い

【問5】養豚経営の収入はどの程度ですか。（1つだけに○）

1. 年間 100 万円未満
2. 年間 100 万円以上、300 万円未満
3. 年間 300 万円以上、500 万円未満
4. 年間 500 万円以上、1,000 万円未満
5. 年間 1,000 万円以上
6. 答えたくない

【問6】養豚経営の収入は5年前に比べていかがですか。（1つだけに○）

1. 減少している、
2. 現状維持である、
3. 増加している

【問7】養豚経営で影響を受けている要因は何ですか。（複数回答可）

1. 円安による経営圧迫
2. 原油高
3. 飼料価格の高止まり
4. 農機具・資材費の高騰
5. 人手不足
6. 鶏肉や卵の価格が上がらない
7. その他

【問8】所有・借り入れしている農地は、主にどの地域にありますか。（区名・町名を記入）

【問9】現在、所有及び借入、貸出している農地面積はどれぐらいですか。

1. 所有している農地面積
2. 借入している農地面積
3. 貸出している農地面積

【問10】現在、年間購入している配合飼料はどれぐらいですか。

1. 配合飼料、
2. 配合飼料価格安定制度への加入

【問11】現在、飼料用米やエコフィードを利用していますか。(複数回答可)

1. 飼料用米、
2. エコフィード、
3. 今は利用していないが、今後利用したい

【問12】現在、養豚の飼養頭数は何頭ですか(令和7年7月1日現在)。

1. 肉豚、
2. 種豚

【問13】堆肥はどのように利用されていますか。(複数回答可)

1. 販売・譲渡、
2. 販売したいが運ぶ手段がない、
3. その他

【問14】堆肥の販売・譲渡についてお聞かせください。(複数回答可)

1. 販売・譲渡価格、
2. 販売・譲渡方法、
3. 販売・譲渡可能な量

【問15】家畜排せつ物や臭気に係る問題がありますか。(1つだけに○)

1. なし
2. あり(該当する項目に☑してください)
 - ・近隣からの苦情が頻繁にあるため解決したい
 - ・時期によって苦情があることもある
 - ・以前は苦情があったが今は改善され苦情はない
 - ・その他

【問16】スマート技術の導入についてどうお考えですか。(複数回答可)

1. IoTセンサーによる豚舎モニタリング
2. AIによる豚の行動分析
3. 自動給餌・給水システム
4. クラウド型農業管理システム
5. バイオセンサー・ウェアラブルデバイス
6. その他

【問17】夏季の高温化が進んでいますが、暑熱対策はどのようにしていますか。(複数回答可)

1. 豚舎の換気や送風を行う
2. 豚舎に遮光ネットを設置する
3. 屋根の断熱を行う
4. 給水の管理を徹底する
5. 飼養管理上の対策を行う
6. 頭数密度を調整する
7. 豚の健康管理を日々チェックする
8. その他

【問18】家畜伝染病に備える埋却地は確保されていますか。(区名・町名・地番を記入)

1. ある
2. ない
3. 今後確保予定

【問19】家畜伝染病の対策はされていますか。(複数回答可)

1. 農場周辺の消石灰散布
2. 施設や器具の消毒
3. 長靴等の踏み込み消毒
4. 豚舎への野鳥やネズミの侵入を防ぐ(ネット・フェンス等)
5. 出入りする人・車両の消毒
6. その他

【問20】農場HACCP(ハサップ)の取組についてどうお考えですか。(複数回答可)

1. 農場HACCPの手法は今後畜産経営において重要である
2. 今後農場HACCPの認定を検討したい
3. 言葉を知らなかったが興味はある
4. 取組んでみたいがどうしたらよいかわからない
5. 聞いたことはあるが関心がない
6. その他

【問21】トレーサビリティの取組についてどうお考えですか。(複数回答可)

1. トレーサビリティの手法は今後畜産経営において重要である
2. 今後トレーサビリティの取組を検討したい
3. 言葉を知らなかったが興味はある
4. 取組んでみたいがどうしたらよいかわからない
5. 聞いたことはあるが関心がない
6. その他

【問22】台風等の自然災害への備え及び停電対策はどのようにしていますか。(複数回答可)

1. 非常用発電機を購入した
2. 非常時にはレンタル会社から非常用発電機をレンタルする予定
3. 非常用発電機を購入予定であるが、まだ導入できていない
4. その他

(2) 10年後を見据えた今後の養豚経営についてお聞きます。

【問23】養豚経営に後継者はいますか。(1つだけに○)

1. すでに就いている(兼業含む)
2. 今は就いていないが、いずれ就農する
3. 継ぐかわからない
4. 後継者は、継ぐことを希望していないが、経営者としては継がせたい
5. 後継者は、継ぐことを希望しているが、経営者としては継がせたくない
6. 後継者がいなくて困っている
7. 後継者がいないが困っていない
8. その他

【問24】養豚経営の規模について、どのようにお考えですか。(1つだけに○)

1. 拡大したい
2. 現状を維持する
3. 縮小したい
4. 養豚は廃業予定
5. 経営の継承をしたい(親戚、外部の法人)
6. 養豚は廃業するが、雇用されて養豚に関わりたい

【問25】養豚経営上困っていることはありますか。(複数回答可)

1. 施設・機械の老朽化
2. 飼料費・資材費の高騰
3. 機械導入価格が高い(スマート機器含む)
4. 豚肉の価格が安い
5. 家畜の疾病が多い
6. 豚熱(CSF)や豚流行性下痢(PED)の脅威
7. 家畜防疫対策のための費用
8. 家畜伝染病のための埋却地の確保
9. 豚ふん処理・堆肥利用・臭気問題
10. 夏季の高温問題
11. 有害鳥獣による被害
12. 後継者がいない
13. 研修の機会が少ない
14. 指導者が少ない
15. 借入金の返済
16. 雇用したいが賃金が高い・募集してもこない
17. 色々な制度があってわかりにくい
18. その他
19. 上記の困っていることをどう解消しますか

【問26】養豚経営を継続するために、特に必要な市の支援策はどれですか。(3つまでに○)

1. 家畜防疫対策
2. 資金(融資)
3. 雇用労働力の確保
4. 各種補助
 - ・施設整備や機械導入(スマート機器含む)
 - ・家畜衛生対策(予防接種・ワクチン接種)
 - ・その他
5. 家畜排せつ物や臭気対策
6. 市民の酪農に対する理解
7. その他

【問27】畜産業(養豚)の意義や生産者の努力に対する市民の理解を促進するために必要なこと、また、できることは何ですか。(複数回答可)

1. 生産者出張授業による小学生への理解促進
2. イベントの開催・参加
3. 農場見学
4. 地域ブランドの推進
5. その他

【問28】市民に対し、本市の養豚及び畜産が誇れる点は何だと思いませんか。

◆今後の養豚施策等について、ご意見がありましたらお聞かせください。

3 養 鶏

(1) 現在の経営の状況等をお聞きます。

【問1】経営者（農業経営の主力となられる方）の年齢をお答えください。（1つだけに○）

1. 20 歳代	0件
2. 30 歳代	0件
3. 40 歳代	0件
4. 50 歳代	1件
5. 60 歳代	2件
6. 70 歳代以上	3件

【問2】経営者を含めた従事者の人数をお答えください。（1つだけに○）

1. 1人	0件
2. 2人	3件
3. 3人	0件
4. 4人	1件
5. 5人以上	2件

【問3】現在、経営形態（労働力）はどのようになっていますか。（1つだけに○）

1. 家族労働力のみ	2件
2. 家族労働力+雇用 雇用	1件 1件（内訳 1人：1件）
うち特定技能外国人	0件
3. 雇用のみ	3件
雇用	1件（内訳 4人：1件、5人：1件、8人：1件）
うち特定技能外国人	1件（内訳 5人：1件⇒インドネシア、ベトナム）

【問4】経営形態（収入）についてお答えください。（1つだけに○）

1. 農業収入のみ	5件
2. 農業以外にも収入があるが農業収入が多い	1件
3. 農業以外の収入が多い	0件

【問5】養鶏経営の収入はどの程度ですか。（1つだけに○）

1. 年間100万円未満	0件
2. 年間100万円以上、300万円未満	2件
3. 年間300万円以上、500万円未満	2件
4. 年間500万円以上、1,000万円未満	0件
5. 年間1,000万円以上	1件
6. 答えたくない	1件

【問6】養鶏経営の収入は5年前に比べていかがですか。(1つだけに○)

- | | |
|------------|----|
| 1. 減少している | 3件 |
| 2. 現状維持である | 3件 |
| 3. 増加している | 0件 |

【問7】養鶏経営で影響を受けている要因は何ですか。(複数回答可)

- | | |
|------------------|----|
| 1. 円安による経営圧迫 | 3件 |
| 2. 原油高 | 3件 |
| 3. 飼料価格の高止まり | 4件 |
| 4. 農機具・資材費の高騰 | 1件 |
| 5. 人手不足 | 1件 |
| 6. 鶏肉や卵の価格が上がらない | 2件 |
| 7. その他 | 0件 |

【問8】所有・借り入れしている農地は、主にどの地域にありますか。(区名・町名を記入)

- | | | |
|--------|-----|----|
| 1. 若葉区 | 中野町 | 3件 |
| | 富田町 | 2件 |
| | 高根町 | 1件 |
| | 旦谷町 | 1件 |
| 2. 緑区 | 平山町 | 1件 |

【問9】現在、所有及び借入、貸出している農地面積はどれぐらいですか。

- | | |
|---------------|-----------------------------------|
| 1. 所有している農地面積 | 2件 |
| 畑 | <内訳>100a 未満:2件 |
| 鶏舎等施設 | <内訳>100a 未満:1件、100a 以上~200a 未満:1件 |
| 2. 借入している農地面積 | 5件 |
| 鶏舎等施設 | <内訳>100a 未満:3件、100a 以上~200a 未満:2件 |
| 3. 貸出している農地面積 | 1件 |
| 畑 | <内訳>100a 未満:1件 |

【問10】現在、年間購入している配合飼料はどれぐらいですか。

- | | |
|-------------------|-------------------------------|
| 1. 配合飼料 | 6件 |
| | <内訳>1,000t 未満:2件、2,000t 以上:4件 |
| 2. 配合飼料価格安定制度への加入 | 6件 |
| ・加入している | 3件 |
| ・加入していない | 3件 |

【問11】現在、養鶏の飼養羽数は何頭ですか(令和7年7月1日現在)。

- | | |
|----------|-----------------------------------|
| 1. 採卵鶏 | 秘密保護の観点から、記載しない |
| 2. ブロイラー | <内訳>年間10万羽未満:1件、年間10万羽以上50万羽未満:4件 |

【問12】堆肥はどのように利用されていますか。(複数回答可)

1. 発酵鶏ふんにしている	2件
2. 乾燥鶏ふんにしている	4件
3. 販売(委託含む)・譲渡	5件
<内訳> 100%:5件、販売・譲渡先:耕種農家	
4. 袋詰めして販売(委託含む)・譲渡	2件
5. バラを運搬して販売(委託含む)・譲渡	6件
・散布まで行っている	6件
・マニアスプレッド使用	5件
6. バラを引き取りにきた人に販売・譲渡	1件
7. 販売したいが運ぶ手段がない	0件
8. その他	0件

【問13】堆肥の販売・譲渡についてお聞かせください。(複数回答可)

1. 販売・譲渡価格	6件
<内訳> バラ	4,000円/2t 1件
	2,000円/2t 1件
	譲渡 3件
袋	130円/袋(20kg) 1件
	100円/袋(15kg) 1件
フレコン袋	2,000円/袋(500kg) 1件
2. 販売・譲渡方法	
・引き取り	2件
・運搬	6件
・散布	6件
・店頭	0件
・その他	0件
3. 販売・譲渡可能な量	
<内訳> 500t未満	2件
500t以上~1,000t未満	3件
1,000t以上	1件

【問14】家畜排せつ物や臭気に係る問題がありますか。(1つだけに○)

1. なし	5件
2. あり(該当する項目に☑してください)	1件
・近隣からの苦情が頻繁にあるため解決したい	0件
・時期によって苦情があることもある	0件
・以前は苦情があったが今は改善され苦情はない	1件
・その他	0件

【問15】スマート技術の導入についてどうお考えですか。(複数回答可)

1. IoT センサーによる鶏舎モニタリング	0件
2. AI による鶏の行動分析	0件
3. 自動給餌・給水システム	4件
4. スマート換気・冷暖房システム	1件
5. クラウド型農業管理システム	0件
6. その他	2件(導入ない・関心ない)

【問16】夏季の高温化が進んでいますが、暑熱対策はどのようにしていますか。(複数回答可)

1. 鶏舎の換気や送風を行う	6件
2. 鶏舎に遮光ネットを設置する	3件
3. 屋根の断熱を行う	2件
4. 給水の管理を徹底する	4件
5. 飼養管理上の対策を行う	4件
6. 羽数密度を調整する	6件
7. 鶏の健康管理を日々チェックする	6件
8. その他	1件(ミスト)

【問17】高病原性鳥インフルエンザに備える埋却地は確保されていますか。(区名・町名・地番を記入)

1. ある	6件
<内訳>埋却地 若葉区中野町	4件
若葉区高根町	2件
面積 1,000 m ² 以上~5,000 m ² 未満	3件
5,000 m ² 以上~10,000 m ² 未満	3件
2. ない	0件
3. 今後確保予定	0件

【問18】高病原性鳥インフルエンザの対策はされていますか。(複数回答可)

1. 農場周辺の消石灰散布	6件
2. 施設や器具の消毒	6件
3. 長靴等の踏み込み消毒	6件
4. 鶏舎への野鳥やネズミの侵入を防ぐ(ネット・フェンス等)	6件
5. 出入りする人・車両の消毒	6件
6. その他	2件
・ウイルス対策・燻蒸	1件
・入口に細霧装置を設置し消毒	1件

【問19】農場HACCP（ハサップ）の取組についてどうお考えですか。（複数回答可）

- | | |
|-------------------------------|--------------|
| 1. 農場HACCPの手法は今後畜産経営において重要である | 4件 |
| 2. 今後農場HACCPの認定を検討したい | 1件 |
| 3. 言葉を知らなかったが興味はある | 0件 |
| 4. 取組んでみたいがどうしたらよいのかわからない | 0件 |
| 5. 聞いたことはあるが関心がない | 0件 |
| 6. その他 | 1件（聞いたことがない） |

【問20】トレーサビリティの取組についてどうお考えですか。（複数回答可）

- | | |
|--------------------------------|----|
| 1. トレーサビリティの手法は今後畜産経営において重要である | 5件 |
| 2. 今後トレーサビリティの取組を検討したい | 0件 |
| 3. 言葉を知らなかったが興味はある | 0件 |
| 4. 取組んでみたいがどうしたらよいのかわからない | 0件 |
| 5. 聞いたことはあるが関心がない | 0件 |
| 6. その他 | 2件 |
| ・やっている | 1件 |
| ・契約先が取り組んでいる | 1件 |

【問21】台風等の自然災害への備え及び停電対策はどのようにしていますか。（複数回答可）

- | | |
|---------------------------------|----|
| 1. 非常用発電機を購入した | 6件 |
| 2. 非常時にはレンタル会社から非常用発電機をレンタルする予定 | 0件 |
| 3. 非常用発電機を購入予定であるが、まだ導入できていない | 0件 |
| 4. その他 | 0件 |

(2) 10年後を見据えた今後の養鶏経営についてお聞きます。

【問22】養鶏経営に後継者はいますか。(1つだけに○)

- | | |
|-------------------------------------|----|
| 1. すでに就いている(兼業含む) | 2件 |
| 2. 今は就いていないが、いずれ就農する | 0件 |
| 3. 継ぐかわからない | 4件 |
| 4. 後継者は、継ぐことを希望していないが、経営者としては継がせたい | 0件 |
| 5. 後継者は、継ぐことを希望しているが、経営者としては継がせたくない | 0件 |
| 6. 後継者がいなくて困っている | 0件 |
| 7. 後継者がいないが困っていない | 0件 |
| 8. その他 | 0件 |

【問23】養鶏経営の規模について、どのようにお考えですか。(1つだけに○)

- | | |
|---------------------------|----|
| 1. 拡大したい | 2件 |
| ・鶏羽数 100,000羽:1件、未定:1件 | |
| 2. 現状を維持する | 4件 |
| 3. 縮小したい | 0件 |
| 4. 養鶏は廃業予定 | 0件 |
| 5. 経営の継承をしたい(親戚、外部の法人) | 0件 |
| 6. 養鶏は廃業するが、雇用されて養鶏に関わりたい | 0件 |

【問24】養鶏経営上困っていることはありますか。(複数回答可)

- | | |
|-----------------------------------|----|
| 1. 施設・機械の老朽化 | 4件 |
| 2. 飼料費・資材費の高騰 | 4件 |
| 3. 機械導入価格が高い(スマート機器含む) | 2件 |
| 4. 鶏肉や卵の価格が安い | 2件 |
| 5. 家畜の疾病が多い | 1件 |
| 6. 高病原性鳥インフルエンザの毎シーズンの脅威 | 6件 |
| 7. 家畜防疫対策のための費用 | 1件 |
| 8. 高病原性鳥インフルエンザのための埋却地の確保 | 0件 |
| 9. 鶏ふん処理・堆肥利用・臭気問題 | 2件 |
| 10. 夏季の高温問題 | 3件 |
| 11. 有害鳥獣による被害 | 0件 |
| 12. 後継者がいない | 1件 |
| 13. 研修の機会が少ない | 0件 |
| 14. 指導者が少ない | 0件 |
| 15. 借入金の返済 | 0件 |
| 16. 雇用したいが賃金が高い・募集してもこない | 0件 |
| 17. 色々な制度があってわかりにくい | 0件 |
| 18. その他 | 0件 |
| 19. 上記の困っていることをどう解消しますか | 6件 |
| ・市の補助事業を活用する | 2件 |
| ・気象、防疫、飼料高騰等の環境の悪化に対して、市の支援を活用したい | 1件 |
| ・なし | 3件 |

【問25】養鶏経営を継続するために、特に必要な市の支援策はどれですか。(3つまでに○)

1. 家畜防疫対策	4件
・高病原性鳥インフルエンザに関するサポート	1件
2. 資金(融資)	1件
3. 雇用労働力の確保	0件
4. 各種補助	5件
・施設整備や機械導入(スマート機器含む)	4件
・家畜衛生対策(予防接種・ワクチン接種)	5件
・その他	0件
5. 家畜排せつ物や臭気対策	1件
6. 市民の養鶏に対する理解	1件
7. その他	0件

【問26】畜産業(養鶏)の意義や生産者の努力に対する市民の理解を促進するために必要なこと、また、できることは何ですか。(複数回答可)

1. 生産者出張授業による小学生への理解促進	1件
2. イベントの開催・参加	0件
3. 農場見学	1件
4. 地域ブランドの推進	1件
・房総ハーブ鶏のPR	1件
5. その他	3件
・防疫対策が必須であることのPR	1件
・ない	2件

【問27】市民に対し、本市の養鶏及び畜産が誇れる点は何だと思えますか。

・「水郷赤鶏」(千葉県ブランド)を飼育していること	1件
・「房総ハーブ鶏」の生産・流通	1件
・安全な鶏卵を生協等を通じて供給している	1件
・良質な堆肥を安価で地元の耕種農家に供給している	1件
・ない	2件

◆今後の養鶏施策等について、ご意見がありましたらお聞かせください。

・補助事業を充実させて欲しい	1件
・機械(ホイルローダー等)の補助	1件
・高病原性鳥インフルエンザ対策	1件

VII 市民アンケート調査結果

<アンケートの概要>

- 1 調査の目的 本指針を策定するにあたり、市民の意見を把握する。
- 2 調査対象 第49回千葉市民産業まつりに来場した千葉市民
- 3 調査期間 令和7年11月1日
- 4 調査方法 対面による聞き取り
- 5 回答数 60人

【問1】千葉市は畜産が盛んであることをご存じですか。(1つだけ選択)

- | | |
|-------------|-----|
| 1. 知っている | 28人 |
| 2. 多少は知っている | 15人 |
| 3. 知らない | 17人 |

【問2】千葉市は畜産の中で特に酪農(牛乳の生産)が盛んであることをご存じですか。(1つだけ選択)

- | | |
|-------------|-----|
| 1. 知っている | 26人 |
| 2. 多少は知っている | 19人 |
| 3. 知らない | 15人 |

【問3】「地元産の牛乳・卵・肉など」を意識して購入していますか。(1つだけ選択)

- | | |
|-------------------|-----|
| 1. なるべく市内産を購入している | 6人 |
| 2. なるべく県内産を購入している | 18人 |
| 3. なるべく国内産を購入している | 27人 |
| 4. 産地にはこだわらない | 9人 |

【問4】地元産の畜産物が生産されていることについてどう思いますか。(あてはまるものすべて選択)

- | | |
|--------------------------------|-----|
| 1. 地元産の新鮮な畜産物が手に入ることはよい | 51人 |
| 2. 学校給食で地元産の牛乳が提供されているのはよい | 31人 |
| 3. 飼育は毎日のことなので大変であるが、頑張ってもらいたい | 32人 |
| 4. 鳥インフルエンザや病気が発生すると大変そう | 16人 |
| 5. エサ代などにコストがかかり、経営が大変そう | 14人 |
| 6. 産地にこだわりはないので千葉市内でやる必要はない | 0人 |

【問5】千葉市の畜産業を応援するために、あなたができると思うことを教えてください。(あてはまるものすべて選択)

- | | |
|--|-----|
| 1. 積極的に地元産の畜産物を買う(千葉酪農牛乳、卵など)
※例:市内販売店(JA千葉みらい直売所・しよいか〜ご、おなりみるく工房、富田さとにわ耕園売店など) | 52人 |
| 2. 畜産を身近に感じる施設(千葉ウシノヒロバなど)を訪問する | 16人 |
| 3. 畜産のイベント(ミルクフェスタなど)に参加する | 31人 |
| 4. 見学を受け入れている牧場があれば見学に参加する | 11人 |
| 5. 市民農園・家庭菜園で畜産堆肥を使う | 5人 |
| 6. 特に思いつかない | 0人 |
| 7. その他 | 0人 |

<参考>千葉県農林水産部畜産課「県産畜産物の認知度及び購入意向について」(抜粋)

<アンケートの概要>

- 1 調査の目的 今後、県畜産物の販売を更に促進するため。
- 2 調査対象 アンケート調査協力員
- 3 調査期間 令和5年11月14日～11月24日
- 4 調査方法 インターネットアンケート専用フォームへの入力による回答
- 5 回答状況 アンケート調査協力員300人のうち268人が回答(回答率 89.3%)

【問1】千葉県は国内でも有数の畜産が盛んな県であることを知っていますか。(1つだけ選択)

- | | |
|-----------------------|------|
| 1. 知っている | 118人 |
| 2. 多少は知っている(聞いたことがある) | 105人 |
| 3. 知らない | 45人 |

【問2】千葉県の畜産物と聞いて、イメージするものはありますか。(あてはまるものすべて選択)

- | | |
|-----------|------|
| 1. 牛乳・乳製品 | 169人 |
| 2. 豚肉 | 126人 |
| 3. 卵 | 120人 |
| 4. 鶏肉 | 64人 |
| 5. 牛肉 | 42人 |
| 6. ない | 31人 |
| 7. はちみつ | 30人 |

【問3】県産畜産物と意識したうえで購入しているものはありますか。(あてはまるものすべて選択)

- | | |
|---------------|------|
| 1. 牛乳・乳製品 | 115人 |
| 2. 産地にこだわりはない | 111人 |
| 3. 豚肉 | 80人 |
| 4. 卵 | 60人 |
| 5. 鶏肉 | 34人 |
| 6. 牛肉 | 22人 |
| 7. はちみつ | 20人 |

※県のホームページでは、回答の割合(パーセンテージ)で表記していますが、回答人数に加工しています。

VIII 参考資料<用語の説明>

I 五十音順

【あ行】

用語	意味	ページ
稲WCS	稲WCSとは稲の Whole Crop Silage (全収穫作物サイレージ) のこと。作物全体 (茎・葉・穂など) を刈り取り、発酵させて飼料にする方法で、稲を収穫して全体をサイレージ (発酵飼料) にしたもの。	17、23
エコフィード	持続可能な農業や畜産業において使用される、環境に優しい飼料のことで、天然資源の節約や廃棄物のリサイクルを促進するために、食品残渣や農業廃棄物を原料にした飼料などが該当。	32

【か行】

用語	意味	ページ
基幹的農業従事者	15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者。	3
急性悪性家畜伝染病	家畜伝染病予防法で定められた家畜に感染する病気の中で、特に感染力や致死率が高く、畜産業に甚大な被害を与える可能性のある病気の総称。具体的には、口蹄疫、豚熱、アフリカ豚熱、高病原性鳥インフルエンザなど。	8
クーラーステーション (CS)	各酪農家から集められた生乳を、乳業工場へ出荷するまでの間、一時的に貯蔵・冷却する施設。ここで生乳の品質がチェックされ、安全に、そして新鮮な状態で乳業工場に届けられる。	12、13、30
耕畜連携 (こうちくれんけい)	耕種 (作物栽培) と畜産 (家畜の飼育) を連携・統合させる取組。例として、畜産農家が生産した堆肥を耕種農家が利用したり、耕種農家が生産した飼料作物を餌として畜産農家が利用する取組がある。	10、12、14、15、17、18、28、29
口蹄疫 (こうていえき)	ウイルスが原因で牛や豚、羊、山羊などの偶蹄類 (ぐうていりい) 動物に感染する、非常に感染力の強い家畜の伝染病。	16
高病原性鳥インフルエンザ	鳥類に感染するインフルエンザウイルスのうち、特に強い病原性 (病気を引き起こす力) を持つタイプを指す。特にH5及びH7サブタイプのウイルスの一部が高病原性化することで知られている。	6、7、8、16、39、41、42
コントラクター	農作業機械や労働力を有し、主に畜産農家から依頼を受けて、飼料作物の生産や収穫作業を行う業務を担う組織。	10、29

【さ行】

用語	意味	ページ
受精卵 (じゅせいらん)	乳牛の受精卵は、人工授精や体外受精などの手法を使って繁殖を管理するために利用され、特に、優れた遺伝的特性を持つ牛の繁殖を効率的に行うために使われることが多い。	7、15、 28
飼養衛生管理基準	牛、豚、鶏などの家畜について、その飼養に係る衛生管理の方法に関して家畜の所有者が遵守すべき基準のこと。農林水産大臣が基準を定め、家畜の所有者に対し、遵守を義務付け。	14、16
食料・農業・農村 基本計画	政府が「食料・農業・農村基本法」に基づいて策定する、今後の食料・農業・農村に関する政策の中長期的な指針・実行計画。政府が総合的・計画的に施策を進めるための中核となる施策設計で、概ね5年ごとに見直し・改定される。令和7年閣議決定。	1
性別別精液	乳牛の人工授精において、雌の子牛を得るために使用される精液で、精子の性染色体に基づいて精子を分ける技術を用いている。生乳生産を目的とする酪農家にとって、雌の子牛を多く生産することは、長期的に利益を上げやすくなる。	7、15、 28

【た行】

用語	意味	ページ
トレーサビリティ	家畜(牛、鶏、豚など)がどこで生まれ、どのように育てられ、どのような経路を経て消費者に届くかを追跡・記録する仕組み。	14、16、 26、33、 40

【な行】

用語	意味	ページ
農場HACCP (のうじょうハサップ)	畜産農場などの生産現場において、食の安全を確保するための衛生管理手法の一つである。HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point: 危害要因分析・重要管理点方式)を農場レベルに適用したもの。畜産業では食肉や乳製品などの生産過程において、細菌の混入や病原体の感染リスクが高いため、農場HACCPによる衛生管理が重要。	8、14、 16、26、 33、40

【は行】

用語	意味	ページ
豚熱 (ぶたねつ)	CSF(Classical Swine Fever)と呼ばれる、豚やイノシシに感染するウイルス性の伝染病。	8、16、 34
豚流行性下痢	PED(Porcine Epidemic Diarrhea)と呼ばれる、豚の消化器系に影響を与えるウイルス性疾患で、特に新生豚や仔豚に深刻な影響を及ぼす。	34

【ま行】

用語	意味	ページ
みどりの食料システム戦略	令和3年に農林水産省が策定した、持続可能な食料システムを構築するための政策方針で、食料生産から消費、廃棄までの各段階において、環境負荷を削減し、地球規模の気候変動問題や資源枯渇、食料安全保障の強化を目指している。	1、9、17

【や行】

用語	意味	ページ
預託 (よたく)	乳牛の仔牛の飼育や管理を第三者に委託することを指す。例として、乳牛の所有者が自分で飼育するのが難しい場合や、経営の効率化を図りたい場合に、農業法人や専門の酪農業者、牧場などに乳牛の仔牛の飼育管理を任せる。	7、15、24、27、28

【ら行】

用語	意味	ページ
酪農ヘルパー	酪農業で働く労働力を補助する人のことを指し、国内の酪農業では、牧場の作業や管理が大変なため、酪農ヘルパーは必要不可欠な存在。主な仕事には、乳牛の餌やりや乳搾り、牛舎の掃除、牛の健康管理、牧草の管理などが含まれる。	15、21

2 アルファベット順

【B行】

用語	意味	ページ
BCP	BCPとは Business Continuity Plan (事業継続計画) の略称。災害等のリスクが発生したときに、重要業務が中断しないための計画。また、万一、事業活動が中断した場合でも、目標復旧時間内に重要な機能を再開させ、業務中段に伴うリスクを最低限にするために、平時から事業継続について戦略的に準備しておく計画。	16

【T行】

用語	意味	ページ
TMR	TMRとは Total Mixed Ration の略称で、牛などの家畜に与える飼料(粗飼料と配合飼料)をバランス良く混ぜたものを指す。家畜の栄養管理を効率的に行うための飼料供給方法。	23、28

千葉市畜産振興指針

千葉市経済農政局農政部

農政センター農業生産振興課

令和8年3月

〒265-0053 千葉市若葉区野呂町714番地3

電話 043 (228) 6282

FAX 043 (228) 3317